



活動報告

平成26年度 仙南地区 緩和ケア講演会 (市民公開講座)

平成27年1月17日 白石市健康センター

仙南地区在宅ホスピスケア連絡会・宮城県仙南保健所・白石市・当推進室の四者主催で「仙南地区緩和ケア講演会(市民公開講座)」を開催しました。昨年12月の大河原会場での開催に続き、今回は100名を超える市民と関係者の皆さんにご参加いただきました。

講演会では、みやぎ県南中核病院の杉山克郎先生より「患者と考え、地域で支えるがん医療」を演題に、市民の皆さんに大変わかりやすくご講演いただきました。続けて、白石市役所職員と白石市でがん患者支援に携わる専門職の皆さんによる「もし、あなたや家族ががんと診断されたら」の寸劇が披露されました。寸劇には白石弁

を取り入れ、参加者の皆さんにも親しみを感じてもらいながら緩和ケアについて学んでいただくことができました。参加者からは「緩和ケアは末期などに関係なく、病氣と戦うために自分らしく頑張るためには必要なことだと思った」や「寸劇はとてもわかりやすかったです」などのご感想をいただきました。



白石市民生部健康推進課 保健師 加川 桐子さん

平成24年より仙南ホスピス連絡会の世話人として活動させていただいておりますが、今から約16年前に、連絡会の研修会に参加したことが今も鮮明に思い出されます。久しぶりに連絡会活動に参加し、改めて介護保険サービスも無いなかで多職種連携を目指して活動が続けてこられた連絡会の方々に敬意を表します。

平成26年度は、以前からの課題であった「緩和ケア・ホスピスケア」の現状を住民に知ってもらう市民公開講座を開催し、住民が参加しやすいように白石市と大河原町の二会場開催を初めて試みました。白石市では、市民の健康づくりに協力頂いている国民健康保険ヘルスパイオニア推進委員を対象とした研修会との合同開催としました。公開講座では寸劇を披露することになりましたが、練習時間も少なく、寸劇のシナリオは登米地域在宅緩和ケア講座で使った内容をほぼそのまま白石弁を取り入れて使わせていただきました。キャストは、刈田総合病院医療相談員や

白石市訪問看護ステーション看護師、居宅介護支援ケアマネジャーなど現に患者や家族を支えている方々にご協力頂きました。皆さん多忙なため全員での練習は開催1時間前でしたが、日頃の連携と患者や家族を支えたいとの共通の思いからか息もぴったりで、会場一杯の115人の参加者全員から大きな拍手をいただくことができました。参加者には「病氣になっても最後まで自分らしさを失わない」「不安や恐怖に押しつぶされそうになった時に支えてくれる人が身近にいる」ということを知ってもらえたのではないかと思います。

「がん」は日本人の死因1位になって久しく、現在では亡くなる方の3人に1人が「がん」です。それほど「がん」という病氣はとても身近なものです。かく言う私も、8年前に乳がんによって侵されました。おかげさまで再発することなく現在に至っております。これからがん患者と家族の支援体制整備とともに、病氣の予防や早期発見・治療の大事さも広く市民に知ってもらえるようにホスピスケア連絡会の方々と連携しながら活動が続けたいと思っております。

平成26年度 塩釜地域 がん患者・家族地域支援対策推進事業研修会

平成27年1月16日 TKPガーデンシティ仙台 ホールB

塩釜保健所と当推進室の共催で「塩釜地域 がん患者・家族地域支援対策推進事業研究会」を開催し、塩釜保健所管内でがん患者支援に携わる関係者119名の皆さんにご参加いただきました。研修会では、岩手県立中部病院の星野彰先生より「地域で取り組む緩和ケア～がんになっても安心して暮らせる町をめざして～」を演題にご講演いただきました。星野先生からは「医療、介護、行政、市民、皆の力をあわせれば、患者さんと家族の生活

を支えることができます。一人ひとりの患者さんと家族を皆で力をあわせて、丁寧に支え続けていくことが大切ですよ」という心に響くメッセージをいただきました。

参加者アンケートからは、地域でのがん患者・家族の支援がまだまだ難しい現状にあることがわかりましたが、がんになっても安心して暮らせる町づくりをめざした活動を、今後も地域の皆さんと共に続けて行きたいと思えます。

アンケート結果の概要 (回答数114名)

1. 地域でがん患者の在宅ケアを提供するにあたり困難に感じていることは?

- ①マンパワーと社会資源の不足
- ②他職種・他機関連携がうまく図れていない
- ③がん患者と家族ケアの難しさ

2. 在宅緩和ケアの推進に必要なことは?

- ①多機関・多職種の協働
- ②マンパワーの充足と施設の整備
- ③支援者のための支援体制
- ④在宅緩和ケアの啓蒙・啓発
- ⑤専門職の自己研鑽



みんなで考えるがん患者支援のための講演会 (市民公開講座)

平成27年2月18日 TKPガーデンシティ仙台 ホールD

がんの患者を支援する地域の関係者を対象に「みんなで考えるがん患者支援のための講演会」を開催しました。当日は、厳寒の悪天候にも関わらず81名の皆さんにご参加いただくことができました。

講師の帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 渡邊清高先生

センター先進包括的がん医療推進室(東北がんブローフェンシス)



生には「がんにおける地域連携と情報提供のこれからを考えよう」を演題に、国のがん施策の動向と併せて宮城県のがん対策の現状と適切な情報を得ることの必要性について講演いただきました。また、医療法人社団爽秋会 岡部医院 河原正典先生には「在宅がん緩和ケアの方向性について」を演題に、地域で取り組まれているがん患者と家族支援の実際を事例を交えてお話いただきました。

お二人の先生のご講演後のアンケートには「先生方の講演を聞いて、在宅緩和に携わる者として制度や情報不足を感じた。またこれからもこのような機会があれば参加したい」という声を多数いただくことができました。

がんの標準治療とがん患者ケアに関する研修会

平成27年3月6日 TKPガーデンシティ仙台 ホールD

がん治療の進歩により外科手術後の入院期間は短縮し、化学療法や放射線療法は外来で行うことが多くなっています。そのため地域には、治療による副作用を伴いながら在宅療養している患者が増えており、地域でがん患者を支援に携わる専門職も新しい知識と情報を取り入れていくことが求められています。

本研修は、講師に当推進室 森隆弘室長と東北公済病院 外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師 菅野真貴先生をお呼びして、森先生には「がん医療の現状と地域がん医療における多職種連携の必要性」を演題に、菅野先生には「がん化学療法を受けている患者へのケアと支援のポイント」を演題にご講演いただきました。

参加者のアンケートには、がん医療の進歩に対する驚きの声と共に「患者が主体的に治療に関わることの必要性を理解できた」や「具体的な患者への支援について理解できた」という感想を数多くいただきました。「さらに深く学びたい」という要望も多く出され、地域の支援者の皆さんのがん患者支援に対する意欲的な姿勢を感じることができました。



平成26年度 第3回 宮城県がん患者会・サロン情報交換会

平成27年3月12日 TKPガーデンシティ勾当台

宮城県がん患者会・サロン情報交換会では、各患者会とサロンの活動報告を行い、それぞれの活動について相互理解を深めてきました。今年度3回開催した情報交換会では、計13団体・施設がチラシやリーフレットを持ち合い、自分たちの患者会・サロン活動について報告することができました。



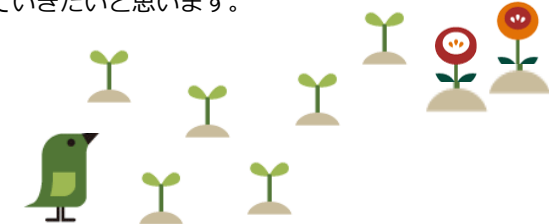
また、話し合いを継続してきた「宮城県内のがん患者会・サロンの横のつながり」については、各団体・施設より意見が出され、「宮城県内の患者会・サロンの活動が緩やかにつながり、相互交流と患者の声を地域へ発信することをめざして、患者会・サロン連絡協議会(仮称)を結成する」ことで合意に至りました。今後は、今年度中の連絡協議会結成を目標に、患者会・サロンの皆さんと共に準備を進めていきたいと思っています。

1年間の活動を振り返って

平成26年度の当室主催の研修会等への参加者数は、延べ1,000名を越えました。本当にたくさんの皆さんにご参加いただきましたことに心より感謝申し上げます。

活動を通して、患者さんや支援者の皆さんががんに関する新しい情報や知識を強く求めていることが伝わってきます。また、がん医療に付随する「サバイバー支援」や「緩和ケアの普及・啓発」、「地域でがん患者支援に携わる関係者のための支援体制」や「多機関・多職種協働」などに関する宮城県内の様々な課題も明確になってきました。

平成27年度は上記の課題解決にあたり、「がんになっても自分らしく暮らせる社会の構築」をめざして引き続き活動に取り組んでいきたいと思っています。今後とも、皆様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



【発行元】 東北大学病院がんセンター
先進包括的がん医療推進室

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1
Tel: 022-717-8885 (直通) Fax: 022-717-8886
E-mail: cancercenter@hosp.tohoku.ac.jp

【編集委員】 真溪淳子/吉田久美子/高橋恭子